

Acroporidae ミドリイシ科
Acropora ミドリイシ属

***Acropora* sp. HD1**
(Figs. 1-4)

タイラクシハダミドリイシ 新称
(図 1-4)

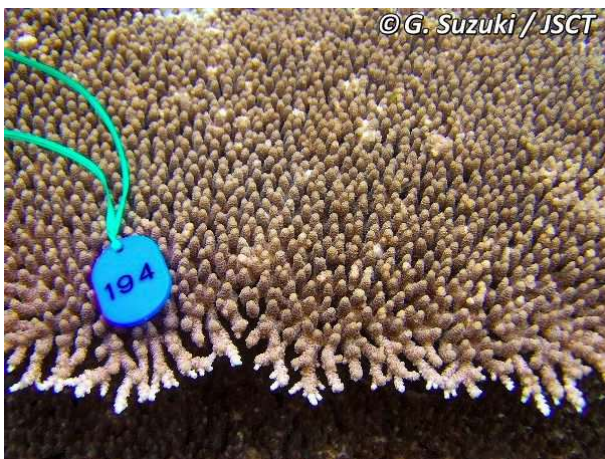


図 1. B194. 石垣島浦底湾, 水深 2 m. 2007-04-27.

図 2. LB23. 阿嘉島マジヤノハマ. 2007-05-30.

図 3. R99. 石垣島浦底. 2006-03-04.

図 4. LB47. 阿嘉島マジヤノハマ. 2007-05-30.

図の撮影は全て鈴木豪.

形態：群体はテーブル状。群体の中心から水平枝が長く放射状に延びて、時々融合する。水平枝から垂直に短い枝が密に分岐するが、垂直枝が *Acropora* sp. HC ナガエダクシハダミドリイシと比べるとあまり伸びない。

識別点：阿嘉島のマジノハマでは、*A. sp. HC* ナガエダクシハダミドリイシと同所的にみられ、垂直枝の長さが短く揃っているように見えた。ほかの地域ではあまり差はなく、種内変異も大きい

分布と生態：*A. sp. HC* ナガエダクシハダミドリイシと同様、琉球列島に広く分布すると思われる。

新称和名：同じく本図鑑で新称した *A. sp. HC* ナガエダクシハダミドリイシに比べ、垂直枝が短いことに由来する。和名基準標本は、LB23 (図 2) である。

和名提唱日：2023-11-12.

備考：Ladner & Palumbi (2012) は、太平洋全体の *A. hyacinthus* complex を対象とした STRUCTURE 解析 (12 か所の分子マーカーを使用) により、A~F の6種の隠蔽種の存在を報告している。Suzuki *et al.* (2016) では、日本周辺の集団を対象に、このうちミトコンドリア非翻訳領域、核の遺伝子および非翻訳領域の合計4か所の分子マーカーを用いて解析し、本種は Ladner & Palumbi (2012) の *A. hyacinthus* D と同じグループになることが推定された。*A. spicifera* や *A. tanegashimensis* と遺伝的に同じDグループに含まれるため、今後、同種かどうかの検討が必要である。

引用文献：

- Ladner J, Palumbi S (2012) Extensive sympatry, cryptic diversity and introgression throughout the geographic distribution of two coral species complexes. *Mol Ecol* 21: 2224-38.
- Suzuki G, Keshavmurthy S, Hayashibara T, Wallace CC, Shirayama Y, Chen CA, Fukami H (2016) Genetic evidence of peripheral isolation and low diversity in marginal populations of the *Acropora hyacinthus* complex. *Coral Reefs* 35: 1419-1432.

執筆者：鈴木豪

Citation：

- [JP] 鈴木豪 (2023) *Acropora* sp. HD1 タイラクシハダミドリイシ. In: 日本造礁サンゴ分類研究会, 日本産有藻性サンゴ類 WEB 図鑑.
Accessed at: https://coralmonogr.jpn.org/Acropora_sp_HD2.html on 2023-11-12.
- [EN] Suzuki G (2023) *Acropora* sp. HD1. In: Japanese Society for Coral Taxonomy. Online Monograph of Zooxanthellate Corals of Japan.
Accessed at: https://coralmonogr.jpn.org/Acropora_sp_HD2.html on 2023-11-12.

更新履歷：

2023-11-12 公開